

第6回（令和5年度 第1回）天竜川水系流域委員会

議事要旨

日 時：令和5年12月18日（月曜日）10：00～12：00

場 所：TKP 名古屋新幹線口、WEB 会議

1. 開会

開会挨拶（浜松河川国道事務所長）

2. 挨拶

辻本委員長挨拶

3. 議事

(1) 天竜川水系流域委員会規約改定について

- 規約（改正案）については了承された。

(2) 第5回（令和4年度 第1回）流域委員会での指摘事項とその対応

- ・ 前回委員会の意見の中で、「類」は「魚類」に対する指摘であった。また対応については「最新の魚類目録に従って記載する」に修正すること。
⇒（事務局回答）了解した。

- 第5回流域委員会での指摘事項と対応については了承された。

(3) 天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検

- ・ 流域委員会の規約、河川整備計画の見直しフローについて、現在進められている河川整備基本方針の改定に伴って、気候変動の影響を踏まえた河川整備計画を見直している実態と整合を図っておくこと。
⇒（事務局回答）次回流域委員会において、規約の変更案を示す。
- ・ 治水対策の進捗について5か年加速化対策等によりどの程度加速化できたか、または何かが原因で予定よりも進まなかったという情報を示すこと。
⇒（事務局回答）次回流域委員会において、提示できるように資料を準備する。
- ・ 事業進捗状況の報告だけでなく、事業進捗による治水・環境への効果を分かりやすく示すこと。事業実施前後を評価するためには、事業実施前の事前調査も重要である。また、課題に対して具体的な対応方針を記載すること。
⇒（事務局回答）事業進捗に伴う効果や課題に対する対応方針を示せるように検討を進める。

- ・ 河川状況の点検という観点では、河川整備計画の内容以外の災害復旧などの事業や対策についても報告すること。
 ⇒（事務局回答）次回流域委員会において、提示できるように資料を準備する。
 - ・ 防災情報に関しては、想定最大規模の広範囲の浸水深の重ね合せ図だけでなく、住民が自分事として捉え、避難方法を判断できる時系列の情報が重要である。
 ⇒（事務局回答）リスクマップの周知・活用や浸水ナビの普及に加え、住民にうまく伝えて活用してもらう情報提供方法について、引き続き検討していく。
 - ・ 流域治水など、治水計画は行政が主体で進められており、住民が対応できるソフト対策の取り組み方をもう少しきめ細やかに地元に説明すること。
 ⇒（事務局回答）流域治水協議会において住民が参加できるような方策を検討していく。
 - ・ 水田貯留は圃場関係者との調整が必要であり、実施までに時間を要する。流域治水協議会の中でも連携を強化すること。
 ⇒（事務局回答）現在、静岡県や農林水産省等と連携し情報共有を図っており、水田貯留による営農者へのインセンティブ等の課題について協議していく。
- 天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検については了承された。

4. その他

(1) 河川整備基本方針の改定について

- ・ 河川整備基本方針の改定においては、気候変動による雨量の増加倍率を 1.1 倍としているが、天竜川流域での気候変動による影響を確認するため、近年までのデータを含めた確率雨量や雨量観測所での降雨量の変化の傾向などを示すこと。
 ⇒（事務局回答）次回以降、流域委員会で報告できるように準備する。
- ・ 河川整備基本方針の計画高水流量について、現行計画から増加した理由や根拠について、丁寧に説明すること。
 ⇒（事務局回答）了解した。
- ・ 伊那市 白鳥市長のご意見に「戸草ダム建設も含めた河川整備メニューの早期見直し」とあるが、三峰川の流量が $1,700\text{m}^3/\text{s}$ に増加している。また、この流量は洪水調節後の流量なのか。
 ⇒（事務局回答）今回の基本方針改定では三峰川に降雨分布が発達する洪水波形が基本高水流量として選定されている。 $1,700\text{m}^3/\text{s}$ は本川・支川を含め、既存ダムの洪水調節機能の最大限の活用や新たな洪水調節施設、貯留・遊水機能の確保の可能性を検討し、洪水調節を見込んだ計画高水流量である。

- ・ 釜口水門の放流量が増加することに対し、長野県と連携して検討を進めること。
⇒（事務局回答）了解した。

(2) 「河川整備計画の目標」の変更について

- ・ 河川整備計画の目標規模の変更に関しては、河川整備基本方針のように全国一律の考えではなく、流域委員会の中で、丁寧に議論できるようにすること。
⇒（事務局回答）了解した。

(3) 今後の流域委員会開催予定

特になし

5. 閉会

閉会挨拶（天竜川上流河川事務所長）

以上